

## 令和7年度 横須賀美術館運営評価委員会

### ●横須賀美術館運営評価委員会（令和7年度第1回）

日時：令和7年（2025年）8月25日（月）14時00分～15時30分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

#### 1. 出席者

委員会 委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
委員	慶長 雅史	横須賀市立大楠中学校校長
委員	倉田 瞳	市民委員
委員	前波 美雪	市民委員
館 長 文化スポーツ観光部長	安田 憲二	
事務局 美術館運営課長	下田 哲央	
学芸担当課長（学芸員）	富田 康子	
美術館運営課総務係長	石川 貴史	
美術館運営課（学芸員主任）	日野原清水	
美術館運営課（学芸員主任）	中村 貴絵	
美術館運営課（総務係主任）	下田 優美	

#### 2. 議事

令和6年度の運営評価について

#### 3. その他

今後のスケジュールについて

## 会議録

### 【開会】

〔事務局・石川〕：定刻になりましたので、「令和7年度 第1回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の石川と申します。よろしくお願ひいたします。

### 【1 あいさつ】

〔事務局・石川〕：最初に、事務局を代表しまして、館長・文化スポーツ観光部長の安田より、ご挨拶させていただきます。

〔安田館長〕：横須賀美術館長、文化スポーツ観光部長の安田でございます。

本日は、ご多忙の中、令和7年度 横須賀美術館 第1回運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆さんには、本日の委員会開催にあたり、お忙しい中、令和6年度事業に対する二次評価を行っていただき、重ねてお礼申し上げます。本日の委員会では、委員の皆さんからいただきました二次評価についてご議論いただき、令和6年度評価を確定いたします。

横須賀美術館は、令和7年11月4日から約10か月間、休館し、改修工事を行います。平成19年の開館以来、様々な展覧会やイベント、取り組みを行ってまいりましたが、初めての改修を経て、リニューアルオープン後には20周年を迎える記念の展覧会も開催していく予定です。休館中は展覧会の開催はございませんが、アートに触れ、美術館に親しんでいただく情報発信をしてまいります。

今後も、社会教育施設としての役目を堅持しつつ、様々な展覧会の開催によりさらに美術館を発展させてまいります。本日の会議におきましても、委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

現在、当館では企画展を2本開催しております。会議終了後、お時間がございましたら、ぜひご覧いただければと思います。

本日もよろしくお願ひいたします。

### 【 委員紹介】

〔事務局・石川〕：次に、新任委員の方に自己紹介をお願いいたします。

このたび、3月まで委員をお務めいただいた三浦委員のご退任を受け、大楠中学校の慶長様に、4月1日付けで委員にご就任いただきました。それでは慶長委員、簡単に自己紹介をお願いいたします。

〔慶長委員〕：4月に委員に着任いたしました、大楠中学校校長の慶長雅史と申します。中学校の美術研究会の会長として7年目になります。専門は数学で、美術教員ではございま

せんが、よろしくお願ひいたします。

### 【 事務局紹介】

[事務局・石川]：本年4月1日付の人事異動により、昨年度まで総務係長を務めておりました下田哲央が、美術館運営課長に昇格いたしました。ご挨拶させていただきます。

[下田課長]：皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。4月から美術館運営課長を務めております下田です。

昨年度は観覧者数が30万人を超えるました。今年度は改修工事のため、長期の休館に入ります。令和9年には開館20周年を迎えることとなります。

このような様々な動きがある中、課長を拝命させていただきました。これまでの取り組みを継承しつつ、しっかりと務めていきたいと思います。

本日の会議、どうぞよろしくお願ひいたします。

[事務局・石川]：また、総務係長の後任として文化スポーツ観光部観光課より石川が着任いたしました。よろしくお願ひいたします。

### 【2 議事 令和6年度の運営評価について】

[事務局・石川]：本日の出欠状況です。菊池委員、関口委員より欠席の旨、連絡をいただいております。

出席者は全7名中5名ですので、横須賀美術館運営評価委員会条例第4条第2項が定める「半数以上出席」の要件を満たすこととなり、本日の会議は成立となります。

また、本日傍聴者を公募しましたが、どなたもいらっしゃいませんでした。

[事務局・石川]：次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、机上にご用意させていただきましたものは、次第、資料1「委員名簿」、資料2「委員による二次評価まとめ」、資料3「運営評価委員会スケジュール」、資料4「【修正版】令和6年度 評価報告書（一次評価）」、資料5「【修正版】令和6年度 評価報告書（参考資料集）」の5つです。

修正版につきましては、事前にお配りした資料からの修正ということで、本日机上にご用意させていただいた資料では修正が済んでいる内容となります。資料4の修正箇所は、後程一次評価の説明の中でご説明させていただきます。資料5の修正箇所は、「①-b. 駐車場利用状況（年度別推移）」の令和6年度の台数を「69,000台」から「70,267台」に修正させていただきました。

以上が本日の資料です。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

[小林委員長]：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（1）令和6年度の運営評価について、事務局から評価の進め方、報告書の体裁等の

説明をお願いします。

〔事務局・石川〕：資料2「委員による二次評価まとめ」ですが、皆様からお送りいただきました二次評価の結果を事務局でまとめたものです。

この資料をもとに、後ほど、ご議論いただきます。ご承知のとおり、①から⑧までの目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。最初に①から⑧の目標ごとに、事務局から一次評価の理由について、簡潔に説明を行います。その後、委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきます。

また、評価報告書の体裁ですが、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載したいと考えます。よろしければ、これまでのとおり、コメントの後ろにかっこ書きで記名させていただきたいと考えております。以上です。

〔小林委員長〕：それでは、進め方、評価報告書の体裁についてですが、いかがでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：それでは、まず、事務局から一次評価の内容とその理由について、①から順に、説明をお願いします。

〔事務局・石川〕：資料2「運営評価報告書（二次評価のまとめ）」及び「評価報告書（一次評価）」に基づき、目標ごとにご説明申し上げます。

それでは、評価報告書（一次評価）の1ページをご覧ください。

私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとて横須賀市を訪れる契機となる。」の事業計画及び目標について、ご説明いたします。

こちらの一次評価は「達成目標」をS、「実施目標」をSとさせていただきました。

まず、達成目標についてです。評価「S」としましたが、1ページ下部の〔一次評価の理由〕に記載の通り、年間観覧者数239,400人という目標設定に対し実績は、301,086人となり、達成率125.8%と目標の120%を上回ったことから、一次評価基準に従い「S」評価としました。

「301,086人」は、開館以来の歴代1位の記録です。開館年の平成19年度の165,961人が昨年度までの最高記録でしたが、その記録を大きく塗り替えることとなりました。

昨年度は「鈴木敏夫とジブリ展」や、国指定重要文化財である運慶の真作5体が揃う展示となった「運慶展」、また関東では当館のみでの開催となった「サルバドール・ダリ展」などの多彩な展覧会の開催により、市内外から多くの皆様にお越しいただくことができました。

2ページをご覧ください。一番上の表に記載がある通り、年間の見込みを大きく上回ったのは、鈴木敏夫とジブリ展が90,400人予測のところ146,183人、運慶展が16,500人予測のところ27,191人、サルバドール・ダリ展28,000人予測のところ43,458人と、主に3つの企画展で見込みを大きく上回る観覧者にお越しいただくことができました。

3ページをご覧ください。次に、実施目標についてです。

評価「S」とした理由を記載しています。大きく3つございます。

一つ目、注目度の高かった「鈴木敏夫とジブリ展」や「運慶展」はもちろん、既存の美術ファンにも楽しんでいただける「細密表現展」、季節の花・アジサイの紹介などで、影響力の大きなテレビ取材を意欲的に受け入れる取り組みを行いました。

二つ目、開館中の展示室内で作品鑑賞と併せて音楽を楽しんでいただくコンサートの取り組みを継続したほか、新たに展覧会と関連付けたコンサートの組み立てや、パイプオルガンとのコラボレーションの取り組みも行いました。

三つ目、季節の花情報とあわせたSNS投稿キャンペーン「アジサイ割」の実施や積極的な商業撮影の受け入れを行うなど、来館の動機付けを生み出す取り組みを行ったことが挙げられます。

3ページ下の表以下、委員の皆様にはすでにお読みいただいている部分となっていますので、ポイントを抽出して、簡単に説明させていただきます。

まず、新聞、雑誌等の掲載件数の表です。令和6年度は全1,046件の情報掲載となりました。この表には令和2年度以降の記載しかありませんが、昨年度も過去開館以来最多の件数でしたが、それを倍以上上回る結果となりました。これは表の下に具体的に記載していますが、様々な方法を使用した、積極的な情報発信の結果だと考えています。

4ページ下段から5ページにかけて、SNSのフォロワー数を記載しております。昨年の3月31日と比較して、Xが2,017人、フェイスブックが2つのアカウント合計で953人、インスタグラムが5,779人も増加しています。

5ページをご覧ください。こちらには、昨年度開催した美術館主催、共催のコンサート、イベントを掲載しています。7月1日には横須賀美術館の設計者山本理顕氏のプリツカー賞受賞記念として横須賀美術館の無料開放を行いました。また先ほども申し上げましたが、「Monthly Welcome Music」は、令和5年度から所蔵品展示室内で開催しています。

7ページをご覧ください。外国人観覧者数の集計を表で記載しています。こちらは、美術館の受付にてチケットを購入した外国人の数を受付スタッフがカウントした結果です。今年度は5千人を超える方、特に東洋系の方の来訪者の大幅な増が継続しています。

8ページをご覧ください。「(4) 団体集客の推進」の下に団体受け入れ数の表を掲載しています。こちらは、昨年度に比べ減少傾向ですが、「鈴木敏夫とジブリ展」の開催時期に団体が受け入れられなかっことなどが理由として挙げられます。

9ページをご覧ください。鈴木敏夫とジブリ展について、記載しています。タイトル下の文章に記載したとおり、「鈴木敏夫とジブリ展」は、横須賀市と民間企業が出資した開催委員会を設置して、開催しました。これにより、民間企業が持っているパイプやノウハウ

を生かすことが可能となり、「訴求活動による集客促進」「民間企業との連携」「地域との連携」についても、過去に例がない規模、手段により令和5年度に引き続き、継続して実施することができました。本報告書では、令和6年度中に実施した主なものを記載しています。

①の説明は以上です。

[事務局：中村]：11ページをご覧ください。「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」について、ご説明いたします。

この項目の一次評価は、達成目標をA、実施目標をSといたしましたが、この場をお借りして訂正がございます。

菊池委員からの二次評価の際のご指摘にもあったとおり、当初の一次評価報告書の達成目標の達成率が106.3%と誤っておりました。その後163.3%に修正させていただきましたが、それと同時に、評価もAからSに修正すべきでした。大変申し訳ございませんでした。

つきましては、大変お手数ではございますが、資料11ページの達成目標を「A」から「S」に、またページ下部の「一次評価の理由」の1行目には「一次評価をAとしました」という部分を、「一次評価をSとしました」と訂正いただきますよう、お願い申し上げます。

達成目標が目標を大きく上回った理由としましては、ギャラリートークの手法を大きく変えたことが挙げられます。従来のギャラリートークは、2名から3名1組で、ツアーフォーマットでお客様をお連れしてまわる方法で行っていましたが、ギャラリートーク活動を再開した令和5年11月以降は、ボランティアがより活躍できる機会を得られる方法をボランティアと相談及び検討し、作品の前でお客様を迎える方法に変更することとしました。そして、トークに参加してくださるお客様を、累積して数えるようになりました。結果として、12ページの表にありますように、ギャラリートーク参加者が、コロナ前に比べて2.2倍の1,444名と増えました。また、コロナ前のギャラリートークでは、1日に活動できるボランティアが2～3名と限られていましたが、令和6年度は、多い時では1日に6名が活動する日もありました。「鈴木敏夫とジブリ展」会期中はギャラリートークができなかつたため、12ページの表だけを見るとわずかに少なくなっていますが、日割にしますと活動数は増えています。

一方、実施目標については、12ページ中段にある2項目のいずれの項目に関しても、各活動において、ボランティアが積極的に参加し、やりがいを持っていきいきと活動していることが感じられたため実施目標をS評価としました。

ギャラリートークボランティアにつきましては、従来のツアーフォーマットと同様に複数のトークプランを提出していただく必要がありましたが、作品の前で迎える形式ですと、トークプランをひとつ作成すれば良いので、新たに加わったボランティアも積極的に活躍することができました。また、多くのお客様が足を止めてくださることが、ボランティアのモチベーションアップにつながっているようです。

鑑賞会ボランティアにつきましては、対話による鑑賞で得られた児童の意見をボランティア

ィア自身が新鮮に感じ、楽しんでいる様子が見られました。鑑賞会後、その日自分が体験したことと共有し合うなど、ボランティア同士でスキルアップを図っているようです。

プロジェクトボランティアにつきましては、イベント準備に余念がなく、当日に向けてコツコツと準備を進める様子が見られました。令和5年度よりも参加者が130名増加し、充実した活動ができました。

各活動においてボランティアは自分たちの役割を認識し、自発的に動くことができています。ボランティアが個人的な知り合いを招き、作品を紹介している場面もありました。美術館をハブとし、人と人とが交流する場面が増えています。

②については以上です。

〔事務局・日野原〕：14ページをお開きください。「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」について、ご説明いたします。

こちらの一次評価は、「達成目標」はA、「実施目標」もA、といたしました。

まず、達成目標については、来館者アンケートの結果「企画展満足度80.0%」をかけ、目標を超える高い満足度をいただきました。

各項目についての満足度を見ていくと、企画展では「作品」がすべて80%台後半から90%前半の数値を出しています。また「配置・順路・照明」と「心的充足」についても80%台後半から90%台の数値を出しています。一方「解説」については70%台後半から90%台と数値のばらつきがみられますので、個々の展覧会それぞれで理由を分析し記載しております。

またアンケートは、従来の紙に加え、令和5年8月から神奈川県の電子申請システムe-kanagawaで回答を受け付けています。展示を見た人が回答するよう、回答ページに接続するQRコードはアンケートコーナー（本館1階、谷内六郎館）と地階の所蔵品展示室に掲示しています。令和6年度はアンケートの回収数が3,013、うち電子申請システムe-kanagawaでの回答が112ありました。

企画展の満足度は総合的に概して高かったため、達成目標をAとしました。

続いて実施目標についてご説明いたします。

令和6年度はバラエティに富んだ展覧会、そして3月下旬から「鈴木敏夫とジブリ展」、10月下旬から「運慶展　運慶と三浦一族の信仰」を行い、通常よりも企画展の本数が多く8本となりました。所蔵品展については、地下で「鈴木敏夫とジブリ展」を開催したために開催できなかった所蔵品展の第1期の代わりに、2階図書室前の廊下のギャラリーにて朝井閑右衛門作品の展示を行いました。また、企画展以外にも所蔵品展示室の一部を使用し、現代作家の「新恵美佐子展」、「生誕100年　芥川紗織」といった中規模の企画を開催しています。

教育普及事業（一般向け）については、19ページのとおり様々な事業を開催し、一定の成果を上げることができました。

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開

し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

これらを総合的にみてA評価といたしました。

③については以上です。

[事務局：中村]：19ページをご覧ください。「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」の一次評価についてご説明いたします。

この項目の一次評価は、達成目標を「D」、実施目標を「A」といたしました。

まず、達成目標の「中学生以下の年間観覧者数 40,000 人」ですが、令和6年度の中学生以下の年間観覧者数は 27,601 人でした。

これは、令和5年度の 21,035 人に比べると約 31.2% の増加ではありますが、目標に対する達成率としては 69.0% であるため、一次評価をDとしました。

達成目標に届かなかつた理由としましては、昨年度同様ゴールデンウィークおよび夏休みにあたる7・8月の中学生以下の観覧者が低調だったことが考えられます。また、令和4年度以前の目標は 22,000 人でしたが、令和6年度については「鈴木敏夫とジブリ展」開催に伴い観覧者数増を見込んで 40,000 人と設定しました。その目標値が高すぎた可能性もあります。ただ、昨年度からの傾向ということで考察してみると、コロナ後、未就学児や小中学生、そしてその家族層をターゲットとした展覧会を開催しておらず、とりわけ令和6年の夏休みに開催した企画展「エドワード・ゴーリー」が、絵本原画展とはいえ、大人向けの展覧会であったことも影響しているかと思われます。

一方、実施目標ですが、こちらは、22ページにあるとおり、「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する」から、「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する」までの6項目を掲げております。

令和6年度は、児童生徒造形作品展と小学生美術鑑賞会、ワークショップ等の事業を当初の予定通り実施し、安定的に参加者を得ることができました。谷内六郎作品にちなんだ学校給食「いくらでもスープ」の提供も3年目となり、鑑賞会で来館する児童から話を聞くことも増えました。以上の一連の成果を踏まえ、実施目標の一次評価はAといたしました。

④については、以上です。

[事務局・日野原]：25ページをご覧ください。「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明いたします。

「達成目標」につきましては、環境調査の実施年2回、美術品評価委員会の開催年1回です。こちらは両方とも実施、開催できたことから一次評価を「A」としました。

続きまして「実施目標」につきまして、「収集方針に基づき、主体性を持って積極的に収集活動を行う。」など4項目です。こちらは、一次評価を「A」といたしました。

一次評価の理由は、26 ページに記載のとおり、これまでの活動が作品の収集に結びついており、作品の保管・展示環境の維持、作品の修復、額装、貸出についても問題なく進められたためです。なお、作品購入については現所蔵者との調整に時間をおこしたため、令和6 年度中の購入を見送り、令和7 年度に購入予算を繰り越しました。この繰り越しによって購入予算の減額などは行っていないことから、一次評価を「A」としました。

⑤については、以上です。

[事務局・石川]：次に、28 ページをご覧ください。「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてです。

こちらの一次評価は、「達成目標」、「実施目標」とともに A とさせていただきました。

まず、達成目標については、その下の〔一次評価の理由〕の欄の表でお示ししているとおり、来館者アンケートの結果「館内アメニティ満足度 92.4%」、「スタッフ対応の満足度 91.0%」とどちらも目標の 80% を超える高い評価をいただきました。

以上から一次評価は「A」とさせていただきました。

29 ページをご覧ください。実施目標「A」の評価理由については、中段以降に項目ごとに記載させていただいております。

メンテナンスの下の表に記載していますとおり、昨年度は、空調機、空調自動制御装置、空調熱源設備等、空調関連設備の修繕を多く実施しました。そして本日冒頭でも申し上げましたが、本年 11 月 3 日の無料観覧日を最後に、来年の 8 月末まで大規模修繕を実施するため休館させていただきます。

30 ページをご覧ください。ここに記載している各事業者とも日々緊密なやり取りをしながら、来館者が気持ちよく過ごしていただけるような運営を心がけています。

なお、令和5 年 4 月から引き続き、令和6 年度もアクアマーレがキッチンカーを出店しており、飲食の選択肢の増加、レストランの混雑緩和などにつながっています。

⑥については、以上です。

[事務局・中村]：続いて 32 ページ「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、ご説明申し上げます。この項目の一次評価は、達成目標、実施目標とともに「A」といたしました。

達成目標は、「福祉関連事業への参加者数延べ 250 人以上」です。「みんなのアトリエ」などすべての事業を実施することができ、参加者数は 298 人となりました。目標値に対し 115% の達成となったため A 評価としました。

続いて、実施目標ですが、こちらは 33 ページにあります 3 項目になります。

こちらは、一次評価を「A」としました。

理由は 33 から 34 ページに記載しましたとおり、未就学児から大人まで、幅広い年齢層

が、それぞれの障害や特性によって参加を制限されることなく、楽しむことができる事業を実施できたためです。

また、実施目標の一つとして「鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等のプログラムを実施する」がございますが、令和6年度は触察用建築模型を制作しました。これまで制作してきたツールと併せて、障害のある方や子どもを対象とした事業のガイダンスなどで継続して使用しています。

実施目標の3つ目に挙げております託児サービスにつきましても、イベントに伴う託児、定期託児ともに、実施することができました。

いずれの事業においても、実施を通してニーズや効果を把握し、次年度以降も改善を重ねていく必要がありますが、一定の成果を出すことができているため、実施目標の一次評価は「A」といたしました。

⑦については、以上です。

[事務局・石川]：次に35ページをご覧ください。「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

一次評価は達成目標、実施目標とともに「A」とさせていただきました。

達成目標の評価の理由は、同ページ中段以降に記載させていただきました。

水道使用量と事務用紙使用枚数は前年度を上回っておりますが、これらは多くの来館者にお越しいただいたことによるトイレ等の利用者数の増や、観覧者数の増に伴った事務量の増によることが理由と考えられますが、目標は全て達成されています。

36ページをご覧ください。実施目標を「A」と評価した理由は、記載のとおりです。

以上で、「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」部分の説明を終わります。

[小林委員長]：それでは、二次評価の議論に入る前に、今の事務局の説明に対する質問はありますか。

[全委員]：ありません。

[小林委員長]：ないようですので、二次評価の議論に進みます。

[小林委員長]：まず、目標①の「達成目標」ですが、いかがですか。

[柏木委員]：「鈴木敏夫とジブリ展」の影響がおそらくあると思いますが、来館者数が平成19年以降最大となっていて、様々な展覧会を実施して、地域のにぎわいの拠点となっている点は高く評価すべきで、S評価とさせていただきました。

〔慶長委員〕：様々な要因があると思いますが、これだけはっきりとした数値が出ていますので、「S」と評価させていただきました。

〔前波委員〕：観覧者数が単年度ではなく継続的に増加している点、目標に達していない展覧会であっても他市から来館した友人もおり、様々な展覧会が横須賀市を訪れる契機となっていると思い、「S」とさせていただきました。

〔小林委員長〕：A評価の委員も1名いらっしゃいますが、ただいまの議論を踏まえまして、①の「達成目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、①の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：実施目標については、関連するコンサートやアジサイ割といったユニークな取り組み、外国人来館者数が増加している点、それらに向けた努力を評価したいと思います。

菊池委員が二次評価にお書きになっている、外国人観覧者数、特に東洋系の外国人観覧者数が増加しているというのがどういう理由なのか、その分析が必要なのではないかと思いました。

〔小林委員長〕：それでは、①の「実施目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、②の「達成目標」ですが、訂正について改めて事務局からご説明をお願いします。

〔事務局・石川〕：この項目の一次評価は、達成目標の達成率を106.3%から163.3%に修正させていただいた際、同時に評価も「A」から「S」に修正すべきでしたが、「A」のままとなってしまっており、先程「S」に訂正をお願い申し上げました。

つきましては、正しい一次評価である達成目標S、実施目標Sに基づいて、二次評価をご議論いただきますようお願いいたします。

〔小林委員長〕：委員全員が一次評価に基づくA評価をしていたところだと思いますが、只今の事務局の訂正により、②の「達成目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、②の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：数値的にもコロナ前の実績より大きくなっています、活動が定着してまた盛り

上がってきているという様子が資料から読み取れますので、実施目標もS評価でよいのではないかでしょうか。

[前波委員]：説明を伺って、お客様が増えたことで話す機会が増えてモチベーションアップしているというところが素晴らしいと思いました。S評価をさせていただいています。

[小林委員長]：それでは、②の「実施目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、目標③の「達成目標」ですが、いかがですか。

[柏木委員]：すべての企画展で目標数値上回ったということ、特に自主企画の瑛九展が目標数値を上回ったということは大変高く評価できる点だと思います。全体でも目標数値を10%以上上回っているので、Sに近いAという評価をさせていただきました。

[前波委員]：アンケートの方法は、e-kanagawaとアンケートコーナーと紙の配布という理解でよろしいでしょうか。

[事務局・日野原]：アンケートコーナーと紙の配布をしているということではなく、アンケートコーナーに紙を置いて、それを取って記入していただいている。

[前波委員]：実はアンケートコーナーを見落としていて、これまで書いたことがありませんでした。回答方法を追加することで、もう少し回答率が上がったりするのかなと思いました。

[倉田委員]：私もSに近いAだと思います。

ダリ展のイベントは、当初は午後の回のみで開催予定であったところ、申込多数により午前の回が追加されました。友人が楽しみにしていて、追加された回で参加できることになつてよかったです、ということがありました。大盛況だったと伺っています。

[小林委員長]：それでは、③の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、③の「実施目標」については、いかがでしょうか。

[柏木委員]：通常の年度よりも開催する展覧会が増えているなかで、バラエティに富んだ様々な人に訴求する展覧会を開催できていること、新収蔵品の速やかな紹介に積極的に取り組んでいることを評価したいと思います。

事務局からの説明の中で解説への評価への言及がありましたが、平易で短い解説を書く

ということに関してはどの館も苦慮しているところです。いっそう平易な解説を書いていく、完璧な解説を書いていくということに取り組まれるよう希望します。

〔小林委員長〕：S評価の委員も1名いらっしゃいますが、ただいまの議論を踏まえまして、

③の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、④の「達成目標」ですが、いかがですか。

〔柏木委員〕：「鈴木敏夫とジブリ展」を高く見ていたというところがあると思いますが、4万人という目標数値が過去の年度の目標に鑑みても高すぎたと思いますので、C評価としました。

〔倉田委員〕：横須賀から一度離れて戻ってくる間に子供が減っている、高校も減っているという状況で、昔はできませんでしたが、近年では横須賀市から横浜市に通学することもできるようになったと聞いており、人数という数値だけを目標にしていくと年々厳しくなるのではないかと思いました。活動に関して大変高く評価しています。

〔前波委員〕：目標に対する評価を最初はDとしていました。

「エドワード・ゴーリー」が大人向けの展覧会であったという記述がありましたが、子どもにとってわかりやすくて、面白くて、来やすい展覧会も重要ですが、子どもにとってよくわからないかもしれないけれど何か心に残る展覧会も重要で、様々な展覧会を子どもが観る機会があったということはよかったです。活動に対して大変高く評価しています。

皆さまのお話も伺いました、子どもたちの色々な状況も目標や達成度に影響するのだと思いました。C評価としてよいのではないかと思っています。

〔小林委員長〕：横須賀美術館は開館が2007年です。そのときから、いかに人を呼ぶかという課題がありました。設計者の山本理顕氏は建築家として高名な方ですが、プリツカー賞を受賞されるまでは、一般の市民の知名度は今ほど高くなかったと思います。

長い間この運営評価委員会の委員を務めてきましたが、横須賀は都心から少し離れていて、独特的の文化がある場所だと思います。英國ではナショナルギャラリーでも子どもたちが寝そべって鑑賞するくらいですから、立派な美術館ができたのであれば、横須賀美術館でも小中学校の教育の中で鑑賞してもらい、子供たちに感性を培ってもらうことは重要だろうという流れで小中学校の先生にも委員に加わっていただくことになったという経緯があります。

横須賀美術館の認知度は高まってまいりましたが、その原点、義務教育課程における横須賀市内の学校と横須賀美術館が教育の中でどのようにうまく結びつくことができるかということは大変重要で、当初から課題にしてきたことです。中学生以下の年間観覧者数の増加傾向に結びつけるような活動が教育と関連する中で続いているといつてほしいと思っています。

す。

〔小林委員長〕：委員によって評価が分かれておりますが、間ということになりますと「C」ということと、ただいまの議論も踏まえまして、④の「達成目標」の評価は、「C」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、④の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕： 数字的に増えていて、児童生徒造形作品展の観覧者数は予測を上回っています。保育園や小学校の鑑賞会、職場体験といったプログラムを着実に実施していると思います。今回はたまたま目標設定が高かったので達成目標の一次評価が「D」となっていますが、しっかりととした取り組みをされていて数字にも表れておりませんので、実施目標についてはA評価とさせていただきました。

〔小林委員長〕：それでは、④の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、目標⑤の「達成目標」ですが、いかがですか。

〔小林委員長〕：それでは、⑤の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、⑤の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：美術館のこれまでの活動の実績が作品の収集・収蔵に結びついているということは美術館として望ましい状況ですから、これまでの努力を評価すべきだと思います。

また、寄託作品が寄贈されるということ、お預かりしているという状況から横須賀美術館の所蔵作品になるということは、高く評価できることだと思います。

〔小林委員長〕：それでは、⑤の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、目標⑥の「達成目標」ですが、いかがですか。

〔柏木委員〕：11月から改修工事に入られるということですので、改修を機に館内の休憩場所という考え方を整理されるとよろしいのではないかと思います。横浜美術館は2、3年閉館してリニューアルオープンをしましたが、什器類について考え方を一新しまして、特に無料で入れる場所にお休みになれる場所をたくさんつくりましたところ、好評をいただいております。そういうことも検討されますと、更なる快適度の向上につながっていく

のではないかと思います。評価としては「A」です。

〔小林委員長〕：それでは、⑥の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、⑥の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、⑥の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、目標⑦の「達成目標」について、いかがですか。

〔前波委員〕：事前の評価で「託児の利用も年々増えてきているようですね」というコメントをさせていただきましたが、託児の利用者数の表は参考資料集のどちらに記載されましたでしょうか。

〔富田担当課長〕：託児は年度ごとの利用者数を記載いたしておりません。一次評価書に実施か未実施かで記載させていただいております。

〔前波委員〕：それでは「増えてきている」というコメントは訂正させていただきたいです。託児サービスについては、子育て中にあるとありがたいものだと思っています。定着しているという印象を持っています。

〔小林委員長〕：S評価の委員も1名いらっしゃいますが、ただいまの議論を踏まえまして、⑦の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、⑦の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：菊池委員もコメントをされていますが、努力されているということが資料から読み取れるところであります。託児サービスはあるべきサービスだとは思いますが、取り組みとして手のかかるこことでもありますし、数字的には需要がないのかなという印象を持つてしまいました。誤っているようでしたら訂正をお願いいたします。この項目の評価としては「A」といたしました。

〔前波委員〕：一次評価書34ページの「美術館が設定した募集日以外にグループの希望日の利用を募る など、引き続きニーズを探りながら」という記載に対してコメントを書かせていただきましたが、予め設定されている日ですとなかなか予定が合わないということもあると思いますので、このような取り組みがあると、より利用しやすくなるのかなと思いました。

〔小林委員長〕：S評価の委員も1名いらっしゃいますが、ただいまの議論を踏まえまして、⑦の「実施目標」は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、目標⑧の「達成目標」ですが、いかがですか。

〔小林委員長〕：ないようでしたら、大多数の委員が「A」と評価しておりますから、⑧の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：次に、⑧の「実施目標」については、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：来館者数が例年に比べて増えますと、光熱水費も増加する傾向にありますが、取り組みによって抑えていて、目標を達成しているという評価をさせていただきました。

〔小林委員長〕：近年猛暑の日が多くなってきています。予算の問題もあるかと思いますが、冷房など環境を考慮した運営をしていただければと思います。市民の負担の軽減だけを優先するのではなくて、美術館に来る人へのサービスも考えていただくようにしてください。

〔小林委員長〕：それでは、⑧の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：それでは、「令和6年度 横須賀美術館運営評価の方法について」ですが、いかがですか。

〔前波委員〕：美術館運営の専門家ではないのでなかなかコメントが難しいところもありましたが、いつも丁寧なご案内をいただきまして、安心して参加することができました。ありがとうございました。

〔小林委員長〕：2009年に委員会制度が発足してから委員を務めてきました。そのときから評価項目はこの1～8項目で変わっていません。当初の課題と、「鈴木敏夫とジブリ展」を開催するなど集客を意識するようになった近年の課題と変わってきているのではないかと思います。当初の課題のうち、解決している課題もあるのではないかと思います。この1～8の評価項目を追求することだけでよいのか、新しい視点で模索することがあるのではないか、考える時期にきていると思います。更なる効果的な位置づけをこれから委員会で検討していただければと思います。現時点の方法としてはよいと思います。

〔その他の委員〕：異議ありません。

〔小林委員長〕：それでは委員会の審議としては以上といたしまして、事務局にお返しします。

〔事務局・石川〕：本日議論いただいた二次評価内容は事務局でまとめ、評価報告書に加えまして、委員の皆様へ送付させていただきます。

委員の皆様には、最終のご確認をしていただき、修正等ございましたら事務局にご連絡いただき、その後は委員長一任として完成としたいと考えます。

〔全委員〕：異議ありません。

### 【3 その他 今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：次に、3その他「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・石川〕：それでは、資料3「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第1回会議でご議論いただき、決定した二次評価をもとに、令和6年度評価報告書を作成し、委員の皆様に送付させていただきますので、再度ご確認いただきますようお願いいたします。その後、確定した評価報告書は、後日当館のホームページで公開させていただきます。

次に、表の下段をご覧ください。第2回委員会では、11月12月を目途に令和7年度の事業計画に関する中間報告書を作成し、委員の皆様にご覧いただき、ご意見をいただくようになります。現時点では、書面会議での開催を予定しています。

また、来年3月に開催する第3回会議では、令和8年度事業計画の案をお示しするという流れで進めてまいります。

横須賀美術館は11月4日から改修工事に伴う休館期間となります、委員会の開催場所は変わらずワークショップ室を予定しております。

今後のスケジュールについては、以上となります。

〔小林委員長〕：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

〔全委員〕：異議ありません。

### 【 あいさつ】

〔小林委員長〕：ここで、本日が最後の委員会の出席となる委員から、一言ずついただきたいと思います。

〔倉田委員〕：横須賀美術館が好きということで、応募いたしました。会議の場では緊張することもありましたが、丁寧な運営で安心して参加することができ、ますますこの美術館が好きになりました。ありがとうございました。

〔前波委員〕：同じく横須賀美術館が好きで、一利用者としてよく訪れていた場所でした。委員会に参加して報告書を拝見することで、いろいろな視点で活動されている、事業を進められているということを知ることができました。よい機会となりました。これだけの事業を進められているということは大変なことだと思いますので、どうぞご自愛ください。ありがとうございました。

〔小林委員長〕：私も本日が最後となります。今回は元々の開催予定日に津波警報・津波注意報の発令があり、開催が延期となり、最後の委員会がリモート開催となってしまうかと思いましたが、対面での会議を再調整いただきありがとうございました。日程が変わったことにより、最後の委員会に参加いただけなくなつた方には申し訳ありませんでした。

横須賀美術館が2007年に開館してからを振り返ってみると、どうしたら美術館に来ていただけるのか、美術館の役割とは何なのか、そういったことをみんなで考えるために委員会ができ、初代館長、歴代館長、学芸員、運営スタッフの力で形になってきたと思います。関心のある方に聞いていただけるように、委員会では傍聴席を設けました。熱心な市議会議員の方もいらっしゃいました。委員会の回を重ねるうち、美術館への良い意見が多く聞かれるようになりました。

最後に横須賀美術館のロケーションについて、市内に住んでいる人にとっても、北部とは全く異なり、走水は灯台があつたり水道があつたり、浦賀ではドックがあつたりと歴史的にも特筆すべき場所であります。そのような場所に位置する美術館の更なる発展を期待しております。長きに渡り、ありがとうございました。

〔小林委員長〕：最後に、事務局から何かありますか。

〔下田課長〕：長時間に渡り、ご審議いただき、ありがとうございました。

本日いただいたご意見を今後の美術館の運営に生かし、よりよい美術館にしていきたいと存じますので、引き続き、よろしくお願ひいたします。

委員としては本日が最後となる方におかれましても、ぜひこれからも美術館に足を運んでいただき、今後とも見守っていただければと考えております。ありがとうございました。

【閉会】